

■ 平成28年8月4日 南部・東部地域振興対策特別委員会県内調査

1 キトラ古墳周辺地区（明日香村）

【調査目的】キトラ古墳壁画体験館 四神の館（開園準備中）の現地調査

【調査概要】国営飛鳥歴史公園及びキトラ古墳周辺地区の整備概要の説明を受け、四神の館を見学

<説明の概要>

国営飛鳥歴史公園について

- 当公園は昭和45年に設置。当初は石舞台地区、甘樫丘地区、祝戸地区の3地区であったが、その後高松塚壁画が発見され、高松塚周辺地区を追加。平成12年にキトラ古墳が特別史跡に追加されたことから、平成13年より事業化され、現在では5地区からなる公園となっている。
- 祝戸、石舞台、甘樫丘、高松塚周辺の4地区（46.1ha）が平成6年まで概成開園しており、現在、キトラ古墳周辺地区（13.8ha）の整備を推進中。
- 国において17カ所の国営公園の整備及び管理を実施。
 - ①一の都府県の区域を超えるような広域な見地から設置されている公園が12ヶ所
 - ②国家的な記念事業又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るため閣議の決定を経て設置されている公園が5ヶ所※当公園は②に該当。

キトラ古墳周辺地区の整備について

- 平成13年3月に国定公園として整備することが閣議決定され、平成18年3月に基本計画を策定。周辺と一体的な調和を図りながら、古都飛鳥の歴史的風土を体験しながら学習できる拠点整備を推進しており、平成28年9月24日に開園する予定。
- キトラ古墳そのものは特別史跡に指定されており、文化庁が整備を行っている。
- 「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」は、キトラ古墳壁画の保存・管理と併せて古代飛鳥の技術や文化について、展示・体験・案内を通じて学習できる拠点として、整備を実施。
- 構造は地上1階、地下1階となっており、地上1階ではキトラ古墳壁画の展示・管理を行い、地下1階では体験的な歴史学習できる施設となっている。
地下1階は国営飛鳥歴史公園事務所が、地上1階は文化庁が整備を実施。

○キトラ古墳壁画体験館 四神の館（地下1階部分）を見学



2 (仮称)五條総合体育館(五條市)

【調査目的】(仮称)五條総合体育館(建設工事中)の現地調査

【調査概要】建設概要の説明を受け、施工現場を見学

<説明の概要>

- 奈良県南部地域は吉野杉と桧材の生産が盛んな地域であるため、その生産力をいかして木造建築を普及拡大させるため、また、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が平成22年に施行されたことを背景として、汎用性の高い木造建築システムを検討し、積極的に木材を使用。
- 建設地は上野公園(16.7haのスポーツ公園)の敷地内となっており、周囲には体育館を遮る建物等がないため、景観のランドマーク性が高い建物となっている。また、周囲の山々の景観に溶け込むような曲線の屋根としている。
- 公園の中央にはシンボリックな池があり、その方向を景観軸として建物を配置し、ステージの背面はガラス窓(高さ6m、幅17m)を設置。

●体育館の機能等

アリーナ部分

- ・面積は約2,000㎡(48m×42m)。
- ・バスケットボールであれば2面、バドミントンであれば10面を確保できる。

客席部分(2階)

- ・客席は502席。
- ・座席は集成材を活用したベンチを設置。

工期・構造等

- ・工期：平成27年3月～平成28年9月
- ・規模：建築面積 4445.19㎡
床面積 5031.15㎡
(1階：4160.39㎡、2階：870.76㎡)
- ・構造等：鉄筋、鉄骨、木造の混構造の地上2階建て。
アリーナを含めて全館空調設備を設置。
木材使用量650㎡のうち県産材は500㎡(40年生の立木計算で約2600本)を使用。
アリーナの屋根は、積極的な県産材活用の観点から、木部材を格子状に直接接合したフィーレンディール(梯子状)骨組みに最低限のブレースを配した変則木造トラスと、それらを補強するために対角線上に架け渡した鉄骨箱形断面のキール梁とのハイブリッド構造で構成されている。

○(仮称)五條総合体育館の建設現場を見学

